

2016年5月28日

「第5回 JYMA 選抜大学対抗&U25 マッチレース」報告書

JSAF キールボート強化委員会

今年で第5回目となる上記大会が3月11日（金）～13日（日）に愛知県・西尾市にあるマリーナ東海にて開催されました。大会当日のレース運営、及び事前に各地で行われた練習会の開催に関して、キールボート強化委員会より支援、協力を行いましたので以下の通り報告します。

記

1. 日程

14日（金）

受付／体重測定、スキッパーズミーティング、ラウンドロビン、夕食、翌日のスキッパーズミーティング

15日（土）

ラウンドロビン、アンパイア・ブリーフィング、翌日のスキッパーズミーティング、パーティー

16日（日）

ラウンドロビン、順位決定戦（1位対2位、3位対4位、5位対6位）、アンパイア・ブリーフィング、表彰式

2. 参加チーム

シャンディガフ（同志社大学）、早稲田大学、慶應義塾大学、TOKAI Match Racing、江の島連合、仰秀（東京大学）、Osailing、九州大学、中日ごあてつくす、関西連合、神戸大学オフショアセーリング部、大学5年生の全12チームが参加した。

3. 競技艇

マリーナ所有のJ/24タイプ艇を使用し、競技艇のセールはメインセール、ジブセール、スピナーカー各1枚によって構成された。

4. レース運営

- 海上でのレース運営は、JYMA 理事の佐藤麻衣子さんを中心にレースを進行し、各運営ボートに現役マッチレーサー等のレース経験者を配置したことによって公平性

が保たれたレースが円滑に実施された。

- ・ 当委員会のメンバーからは 14 名が現地に行き、ボランティアスタッフとしてマーク設置等レース運営に協力した。
- ・ 3 日間天候に恵まれたことと、スムーズなレース運営であったため、予定通りにラウンドロビンを完了し、順位決定戦まで行うことが出来た。
- ・ 例年、強風下での艇体トラブルが多く発生していたが、今年は全日程とも順風であったことや、参加チームのレベルが上がっていたため、艇体破損のトラブルは少なかった。

5. コース等

コースは風上・風下ソーセージコース（スタート・上・下・上フィニッシュ）で、1 フライットの時間がおよそ 30 分程度で完了するレグの長さで設定された。

6. 規則

RRS の付則 C を含む規則に準じて行われた。クラスルールは適用されず、帆走指示書にて記載された競技艇取り扱い規則が適用された。また、本大会ではワールド・セーリングによって承認されたマッチレースのためのテスト・ルールが使用された。

7. レース結果

レース結果に於いては別紙参照

8. 学生の参加料

大会参加費は 1 チーム 6 万円（競技艇使用料、艇体保険）であり、別途初日の夕食及びパーティー参加費として 1 人 5 0 0 0 円がかかった。ダメージデポジットは 2 万円であった。

参加選手・スタッフの宿泊には、西浦温泉「富士見荘」を格安で利用することができた。

9. 事前練習会の開催

- ・ JYMA からの要請にもとづき、三崎、和歌山、志摩の各地でキールボートの操船及びマッチレースの基礎に関する練習会が 1-2 月に開催された。
- ・ ボランティアスタッフ及び講師として、大会主旨に賛同する多数のキールボートチームから協力を得て開催された。
- ・ 練習会には多くの大学チームが参加し、本大会のレベルアップ、また社会人セーラーと学生の交流という観点からも非常に有意義であった。

10. その他

〔大会の継続〕

本大会は今年で5回目を迎えたが、今年も例年以上に盛り上がった。大会の回数を増すごとに認知度が広まり、各大学のOB,OGや全国のレーシングチームなどの多方面の人に注目されるようになってきた。第3回目大会から大学対抗だけの位置づけではなく、「U25」と名前を取り入れることで、大学という垣根を越えたチームが結束するようになった。第4回目大会では、ユース世代の代表格のチームや、私的にマッチレースを取り組むチームが参加するようになった。そして第5回目となる本大会では、大学間を越えたチームや国内外で活躍をしているユースチームが参加するようになり、大会として、『大学間でのレースから国内のユース世代の大会』として変革をと遂げている。

また、大会ホームページやSNSを使ってJYMA自身の広報活動や参加選手自身が大会前後にPRするようになってきた。今大会もシエスタチームがU-stream放送を行い、レースの様子をリアルタイムでネット配信したことで、大会の盛り上がりを広く知ってもらうことができた。口コミだけでなく、SNSやネット配信が充実するようになり、大会の認知度が回を増すごとに広まり次回大会へ向けたスポンサー獲得のPRや、大会への参加希望者を増やしている取り組みがされていた。

〔大会運営と事前練習会の手伝い〕

本大会では、現役マッチレーサーであるシエスタチームや月光チームのメンバーが、ボランティアとしてレース運営に携わっていた。また、過去の本大会の出身者のOBまでもが運営の手伝いに参加していた。それだけでなく、各水域での練習会でも多くのキールボートチーム、レーシングチームの協力があつたことによって、短期間にも関わらず内容の濃い練習会が行われた。

〔ディングーだけではないセーリング活動〕

本大会では事前の練習会や大会本番でも、学生と各キールボートチームのメンバーやレーシングチームの現役セーラーとの交流の場が多く設けられている。学生の普段の活動では、なかなか社会人のセーラーと交流ができる機会が少ないが、本大会では練習会から本番までと長い期間で接点があるため、学生達には卒業後にキールボートやレーシングボートを通してのセーリングライフの継続や、ディングーだけでないセーリング活動を知る良い機会になっていると感じる。現に、大会参加者の中にはキールボートの世界で第一線で活躍している選手や、FUN SAILINGとしてキールボートレースに参加している選手が増えている。今までは、卒業後にセーリング活動から離れてしまうことが多かったが、昨今では本大会を通してセーリングの幅を広げる学生が増えており、本大会のOB,OGが様々なキールボートレースに出ている話を耳にするようになったため、大会としての意義が増していると考えられる。

〔参加選手の意識変革と大会のレベルアップ〕

本大会は、例年以上に学生の技術レベルが高かったのが印象的であった。その背景には本大会の認知度が広まり、選手自身が『練習すれば優勝できる可能性がある』と認識し始め、ディンギーでのインカレが終わってから、すぐに練習を始めるチームが増えており、絶対的な練習量も増えていた。また、選手をとりまく環境も変わっており、選手の練習を協力的に手伝えるチームが増えており、合同練習を行ったり練習艇を貸出したりなど、選手が練習する環境が充実してきているのが挙げられる。これによって選手の操船技術、クルーワーク、マッチレースのケーススタディを多く学んだ状態で大会に挑むことが出来たため、例年以上に見応えのある『マッチレース』を見ることが出来た。

環境だけでなく、キールボートやマッチレースというシーンにすぐに順応する選手の呑み込みの早さにも毎年驚かされる。

〔学生の海外レースへのチャレンジ〕

本大会のOBで今やマッチレースで世界を転戦して精力的に活躍している市川航平選手が昨年度の大会に出場して優勝を果たしたのは記憶に新しいが、昨年度、参加したチームの中でも、本大会を皮切りに海外へのチャレンジをする選手が増えてきた。Osailingの

『ASIA PASIFIC STUDENT SUP』への挑戦やOsailing、山本選手の合同チームでの『THAI NATIONAL』、『THAI CHAMPIONSHIP』への出場、市川選手、仰秀の合同チームでの『MATH RACE GERMANY』の参加など、国内の活動に留まらず、競技者として精力的に活動している。また、マッチレースのシーン以外にもキールボートのレースでチームに所属して世界選手権で活躍する選手も出ており、本大会が一つの登竜門として確立されつつある。

今回、優勝したシャンディーガフ（同志社大学）チームも9月にオーストラリアのパースで行われる、ユニバーシアードのマッチレースに参戦予定である。

本大会は、若手選手のセーリングの活動の幅を広げられるきっかけの大会として成功しつつあるので、当委員会としても今後も協力して大会を盛り上げられるように努めていきたい。

以上

JYMA Youth National Championship U25

11-13 Mar, 2016 ISAF Grade 3 JYMA egF=1.5

Result

[Entry List]

[STAGE 1] Round Robin

order	Group	Skipper Name	ISAF ID	Team	Round Robin Results												penalty	pts	place 1-12																												
					<table border="1"> <tr> <td></td> <td>早稲田</td> <td>九州大</td> <td>神戸大</td> <td>Osail</td> <td>江の島</td> <td>5年生</td> <td>同志社</td> <td>慶應大</td> <td>TOKAI</td> <td>仰秀</td> <td>中日</td> <td>関西連</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>A</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td>B</td> <td></td> </tr> </table>													早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連			A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B				
	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連																																			
	A	A	A	A	A	A	B	B	B	B	B	B																																			
1	A	Koizumi Sosaku	JPNKS11	早稲田大学ヨット部	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		5	8																												
4	A	Koki Tanaka	JPNKT29	九州大学	九州大	早稲田	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		9	2																												
5	A	Keita Toura	JPNKT34	神戸大学オフショアセーリング部	神戸大	早稲田	九州大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		2	10																												
8	A	Takahiro Ogura	JPNT022	Osailing	Osail	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		8	3																											
9	A	Yuki Sakurai	JPNYS30	江の島連合	江の島	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		5	9																											
12	A	Toshitsa Miroma	JPNTM30	大学5年生	5年生	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連			12																											
2	B	Tsuyoshi Yamada	JPNTY20	シャンドーガフ	同志社	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		9	1																											
3	B	Yuka Nagahori	JPNYN2	慶應義塾大学	慶應大	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		7	5																											
6	B	Masahiro Yamamoto	JPNNM21	TOKAI Match Racing	TOKAI	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		7	4																											
7	B	Hiroaki Matsuyama	JPNHM20	仰秀	仰秀	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		6	6																											
10	B	Toshiki Kanaya	JPNTK31	中日ごあてつくす	中日	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		2	11																											
11	B	Satoru Kochi	JPNSK20	関西連合	関西連	早稲田	九州大	神戸大	Osail	江の島	5年生	同志社	慶應大	TOKAI	仰秀	中日	関西連		5	7																											

[STAGE 2] Final Knock Out

	Consolation Final	ISAF ID	Team	1	2	3	W/L
5RR	Yuka Nagahori	JPNTY2	慶應義塾大学	○	○		W
6RR	Hiroaki Matsuyama	JPNHM20	仰秀	×	×		L
	Petit Final	ISAF ID	Team	1	2	3	W/L
3RR	Takahiro Ogura	JPNT022	Osailing	×	○	○	W
4RR	Masahiro Yamamoto	JPNNM21	TOKAI Match Racing	○	×	×	L
	Final	ISAF ID	Team	1	2	3	W/L
1RR	Tsuyoshi Yamada	JPNTY20	シャンドーガフ	○	×	○	W
2RR	Koki Tanaka	JPNKT29	九州大学	×	○	×	L

[Final Result]

place	skipper	Team
1st	Tsuyoshi Yamada	シャンドーガフ
2nd	Koki Tanaka	九州大学
3rd	Takahiro Ogura	Osailing
4th	Masahiro Yamamoto	TOKAI Match Racing
5th	Yuka Nagahori	慶應義塾大学
6th	Hiroaki Matsuyama	仰秀
7th	Satoru Kochi	関西連合
8th	Koizumi Sosaku	早稲田大学ヨット部
9th	Yuki Sakurai	江の島連合
10th	Keita Toura	神戸大学オフショアセーリング部
11th	Toshiki Kanaya	中日ごあてつくす
12th	Toshitsa Miroma	大学5年生











